

## 決算短信投資術その2 「企業自身の業績予想」と進捗度や修正をチェックする



### 株価への影響が非常に大きい企業自身の業績予想

3月決算企業の決算発表が佳境をむかえています。決算発表シーズンということで、[前回の銘柄フォーカス](#)では企業の決算短信を3ヶ月ごとに区切ってチェックする方法をご紹介しました。本日の銘柄フォーカスでは、株価への影響が非常に大きい「企業自身の業績予想」についてご紹介します。

### 原則として企業は自社の業績予想を発表する

日本企業は原則として、期初にその期の業績予想を発表します。「原則として」としているのは、証券会社など市況等の影響が特に大きく業績予想を発表することが困難な一部の企業は予想を発表しない場合もあるためです。

企業の発表する業績予想は非常に重要な情報として大きく注目され、業績予想次第で株価が大きく動くことがあります。企業は自社の業績の先行きについて最も情報を多く持っている主体であり、予想の確度が高いと考えられているからかもしれません。

例えば昨日（5月11日）の大引け後に、トヨタ自動車（7203）は2016年3月期の業績実績と2017年3月期の業績予想を発表しました。2016年3月期は増収増益を達成しましたが、2017年3月期の予想を減収減益と発表し、特に営業利益の減収率が前期比40%超と大幅な業績悪化予想を発表したことで本日（5月12日）の株価は前場終了時点で約3%安と売られています。

#### <トヨタ自動車（7203）の決算短信・一部抜粋>

##### 1. 平成28年3月期の連結業績(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

###### (1) 連結経営成績

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期	28,403,118	4.3	2,853,971	3.8	2,983,381	3.1	2,312,694	6.4
27年3月期	27,234,521	6.0	2,750,564	20.0	2,892,828	18.5	2,173,338	19.2

##### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通期	26,500,000	△6.7	1,700,000	△40.4	1,900,000	△36.3	1,500,000	△35.1	490.51

(注)上記の連結業績予想における1株当たり情報は普通株式に係る情報です。

(注)熊本地震に伴う工場稼働停止の影響は織り込んでいません。

(出所) トヨタ自動車決算短信より

## 業績予想の修正でも株価は大きく動く

このように非常に重要視される企業の業績予想ですが、当初の業績予想の発表時点だけでなくその後も注目をあつめる場合があります。それは企業が業績の進捗によって、業績予想を修正する場合があるからです。

例えば歯みがきなどで知られるライオン（4912）は、5月9日に第1四半期の業績発表と同時に中間期や通期の業績予想を上方修正しました。ライオンは12月決算を採用しているため1-3月期はまだ最初の3ヶ月というわけですが、国内の一般用消費財の販売が想定以上に好調に推移していることから業績の上方修正に踏み切ったようです。上方修正を受け発表翌日に株価は13%超の大幅上昇となりました。日本企業は保守的で業績予想を控えめに見積もることが多いとされていますが、第1四半期時点で業績予想を上方修正したライオンの強気な姿勢を見て、市場はさらなる業績拡大を期待したのかもしれませんが。

### <ライオン（4912）の業績予想の修正>

平成28年12月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成28年1月1日～平成28年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	185,000	6,500	7,000	4,000	13.95
今回修正予想(B)	190,000	8,000	9,000	5,000	17.44
増減額(B-A)	5,000	1,500	2,000	1,000	
増減率(%)	2.7	23.1	28.6	25.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年12月期第2四半期)	180,283	5,698	6,647	3,898	14.53

平成28年12月期通期連結業績予想数値の修正（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	390,000	18,000	19,000	11,000	38.37
今回修正予想(B)	395,000	19,000	20,000	11,500	40.11
増減額(B-A)	5,000	1,000	1,000	500	
増減率(%)	1.3	5.6	5.3	4.5	
(ご参考)前期実績 (平成27年12月期)	378,659	16,374	18,099	10,680	39.35

（出所）2016年5月9日のライオン発表資料より

## 増益予想や上方修正でも株価が下落する理由

ライオンの場合のように業績予想が上方修正されたら株価は上昇することもあれば、上方修正され

ても株安になる場合もあります。その理由の 1 つとして、事前にわかっているアナリストの業績予想コンセンサスとの比較で企業の予想が物足りないという場合があります。例えば会社が発表した業績予想は 15%の営業増益予想に上方修正したとしても、アナリストコンセンサスが 20%の営業増益予想だった場合には、「なんだ、思ったより業績は伸びないのか・・・」と失望を誘って株価が下がる場合があるということです。

最後にマネックス証券の無料投資情報を使って、業績についてのアナリストコンセンサスを確認する方法をご紹介します。マネックス証券でご提供している「決算&業績予想」というウェブツールを使うと、以下の様な情報をご確認いただけます。

#### <決算&業績予想で主にできること>

- 企業の決算発表スケジュールや決算内容のアナリスト予想を確認
- 業績の会社予想に対する進捗状況の確認
- 企業のレーティングや目標株価コンセンサスを確認
- 過去の適時開示情報の確認

以下は「決算&業績予想」におけるトヨタ自動車についての情報です。緑色の背景で示されている「201703（連結）コンセンサス」という部分が、同ツールの提供元であるアイフィス社が集計したアナリストの予想のコンセンサスです。「営業利益」を見ていただくと、2017年3月期のアナリストコンセンサスが 2兆 6719 億円だったのに対し、会社の予想は上述したように 1兆 7000 億円と大幅に下回る弱気なものだったことが確認できます。「決算&業績予想」はマネックス証券にログインして、「ツール（プレミアムウェブ）」というページにアクセスすればどなたでも無料でご利用いただけます。ぜひ活用していただければ幸いです。

決算期・予実	発表日	売上高(前期比)	営業利益(前期比)	経常利益(前期比)	当期利益(前期比)
201503(連結) 会社実績	2015/05/08	27,234,521	2,750,564	2,892,828	2,173,338
201603(連結) 会社実績	2016/05/11	28,403,118	2,853,971	2,983,381	2,312,694
201703(連結) 会社予想	2016/05/11	26,500,000	1,700,000	1,900,000	1,500,000
201703(連結) コンセンサス	2016/05/11	28,056,028	2,671,989	2,810,782	2,171,544
201803(連結) コンセンサス	2016/05/11	28,791,694	2,844,794	2,987,125	2,302,647

※単位は百万円

(出所)「決算&業績予想」トヨタ自動車の業績予想ページより

なお、本レポートでご説明した内容は[こちらのセミナー](#)でも詳しくご説明しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

#### ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会